



道徳だより

2026. 1. 21 号
みよし市立緑丘小学校



3年生「王様のサンドイッチ」(内容項目B 感謝)

ねらい

毎日の食事のような当たり前の生活の中に実は多くの人のお世話があることを理解し、感謝の気持ちをもって生活しようとする態度を育てる。

授業の様子

めあてを「感謝にはどんな考えが大切な」として子どもたちに提示しました。感謝の心が大切であることはよく理解している子どもたち。低学年では、目の前でしてくれたり、直接関わったりしてくださる方々への感謝の気持ちを深めてきた。中学年では、目に見えていない遠くや裏でも「自分のためを思って動いてくださる方々」への感謝にまで思いを広げていく。どこまで視野を広げられるかが大切になってくる。このように感謝の視野を広げることをねらいとして授業を行った。

教材名「王様のサンドイッチ」の概要

むかし、むかし、ある国に王様がいました。王様は毎日お仕事をしていました。国を治めるというお仕事なので、することが多い、大変でした。山のような書類に目を通し、よく考えてからサインをしたり、別の国からの来客に失礼がないように対応したりするので、頭を使いすぎて、頭がずきずきしてきました。「ああ、つかれた。なぜ、私一人が、こんなにたくさん働かなくてはいけないのだ」とぐちがこぼれます。

王様はサンドイッチが大好きでした。食べると元気が出ます。サンドイッチははさむだけなので、簡単にできるはずと考え、真夜中だってサンドイッチを作らせました。さらに、二度同じサンドイッチを出してはいけないと命令しました。毎日毎日いろいろなサンドイッチが作られましたが、料理長はだんだん考えるのが大変になってきました。王様は、「最近同じようなものばかり続いているので、簡単なサンドイッチだからパパッと作ってみなさい」と伝えます。それを聴いた料理長は王様を台所へ案内します。そこでは、大勢の人が働いていることを初めて目にした王様。王様はちょうど目の前で作られたごく普通のたまごサンドを一口一口味わって食べました。「うまいっ」今までたくさん食べたサンドイッチと同じはずなのに、特別な感じがしました。

始めに「感謝していることについて」聞いたところ「手伝ってくれた」「ご飯を作ってくれた」「遊んでくれた」などしてもらったことを挙げていきました。教材を読んだ後、「王様はサンドイッチについてどんな考えだったか」を問うと「簡単にできる」「はさむだけ」「元気が出る」と答えています。次に「実際にサンドイッチをつくっている場面を見たときの王様の思い」を問うと「簡単だと思っていた」「こんなに多くの人と時間がいる」

「とても大変なんだ」と簡単だと思っていたサンドイッチに人出と時間がかかっていることを初めて知った王様「ごく普通のたまごサンドを一口一口味わっていた時の王様の考え」を問うと「ありがとうの気持ちになった」「目に見えていないところでがんばっていることが分かった」と答えています。実際に自分たちに置き換えて考えてみると「家がいつもきれいになっている」「おいしいご飯を作ってくれる」子どもたちは、自分も王様のように知らないことが多いから、何でも当たり前と思わず、見えないところで関わってくれている人たちのことも考えたいと振り返っていました。

